```
const MyApp({super.key});
// This widget is the root of your application.
@override
Widget build(BuildContext context) {
 return MaterialApp(
   title: 'Flutter Demo',
   theme: ThemeData(
     // This is the theme of your application.
     // TRY THIS: Try running your application with "flutter run". You'll see
     // the application has a purple toolbar. Then, without quitting the app,
     // try changing the seedColor in the colorScheme below to Colors.green
     // and then invoke "hot reload" (save your changes or press the "hot
     // reload" button in a Flutter-supported IDE, or press "r" if you used
     // the command line to start the app).
                                                                           -0
     // Notice that the counter didn't reset back to zero; the application
     // state is not lost during the reload. To reset the state, use hot
     // restart instead.
     // This works for code too, not just values: Most code changes can be
     // tested with just a hot reload.
     useMaterial3: true.
   home: const MyHomePage(title: 'Flutter Demo Home Page'),
 );
```

●でThemeDataクラスのインスタンスを作成し、MaterialAppウィジェットに渡しています。英語のコメントにもあるように、カラーを変更して動作を確認してみましょう。

今回は**②**の deepPurple を blue に変更してください。ソースコードを保存すると、ホットリロード機能でアプリの外観が変化します。もし、変化しなければAndroid Studio のホットリロードボタンをクリックしてみましょう。

アプリの外観が紫を基調としたテーマから青に変化したことが確認できると思います。ThemeData クラスはアプリのテーマ情報を持つクラスです。ThemeData クラスの代表的なプロパティに、色のパラメータを持つ colorScheme と、文字のパラメータを持つ textTheme があります。

ColorScheme クラスはマテリアルデザインのルールにのっとり、テーマの 色のパラメータを計算します。さらに、計算済みの色を一部カスタマイズす

# テーマとルーティング

ることもできます。

```
class MyApp extends StatelessWidget {
 const MyApp({super.key});
 @override
 Widget build(BuildContext context) {
   return MaterialApp(
     title: 'Flutter Demo',
     // theme: ThemeData(
     // colorScheme: ColorScheme.fromSeed(seedColor: Colors.blue),
     // ),
     theme: ThemeData(
       colorScheme: ColorScheme.fromSeed(seedColor: Colors.blue)
            .copyWith(background: Colors.blueGrey), — ①
       useMaterial3: true,
     home: const MyHomePage(title: 'Flutter Demo Home Page'),
   );
 }
```

ColorScheme クラスの copyWith メソッドを使い、カラーを変更したコピーを作成します。この例では背景カラーを変更しています( $\mathbf{1}$ 、図 5.1)。

## 図5.1 backgroundカラーが変更された様子



続いて textTheme について見てみましょう。

```
class MyApp extends StatelessWidget {
  const MyApp({super.key});
  @override
  Widget build(BuildContext context) {
    return MaterialApp(
      title: 'Flutter Demo',
      theme: ThemeData(
        colorScheme: ColorScheme.fromSeed(seedColor: Colors.blue)
            .copyWith(background: Colors.blueGrey),
        textTheme: const TextTheme(
          bodyMedium: TextStyle(
            color: Colors.white,
            fontWeight: FontWeight.w600,
          ),
        ),
        useMaterial3: true, —@
      ),
      home: const MyHomePage(title: 'Flutter Demo Home Page'),
    );
  }
```

ThemeData クラスへ TextTheme を渡しました (●)。 ここでは bodyMedium というテキストスタイルの色とフォントウェイトを変更しています (図 5.2)。

## 図5.2 TextThemeが変更された様子



# テーマとルーティング

第5章

アプリのデザインを細かくカスタマイズするには、ColorSchemeのリファレンス $^{\pm 1}$ と TextThemeのリファレンス $^{\pm 2}$ 、それと併せてマテリアルデザインのドキュメント $^{\pm 3}$ を参照してください。

また最後にuseMaterial3というコンストラクタのパラメータについても触れておきます(②)。このパラメータはMaterial Design 3(以降、M3)のテーマを利用するかどうかを指定します。M3はGoogleが提唱するマテリアルデザインの新しいバージョンで、従来のものよりも表現力が豊かでアクセシビリティが高いデザインとなっています。

M3はオプトインの形で段階的に導入されてきましたが、Flutter 3.16をもって M3がデフォルトになりました。今後は useMaterial 3 フラグは削除され、従来までの Material Design 2のコードは削除される予定です。

#### ダークモード対応

ここ数年のiOSやAndroidはユーザー設定や時間帯に応じて暗い外観に切り替わるダークモード機能を持っています (iOSはダークモード、Androidではダークテーマと言いますが、本書では両方を指してダークモードと呼ぶこととします)。MaterialAppウィジェットやThemeDataクラスを使うことで簡単にダークモードに対応できます。サンプルをお見せしましょう。

```
class MyApp extends StatelessWidget {
 const MyApp({super.key});
 // This widget is the root of your application.
 @override
 Widget build(BuildContext context) {
   return MaterialApp(
      title: 'Flutter Demo',
      theme: ThemeData(
       colorScheme: ColorScheme.fromSeed(seedColor: Colors.deepPurple),
       useMaterial3: true.
      ).
      darkTheme: ThemeData(
       colorSchemeSeed: Colors.deepPurple,
       brightness: Brightness.dark, -
      ),
      home: const MyHomePage(title: 'Flutter Demo Home Page'),
```

注1 https://api.flutter.dev/flutter/material/ColorScheme-class.html

注2 https://api.flutter.dev/flutter/material/TextTheme-class.html

注3 https://m3.material.io/styles/color/the-color-system/color-roles

```
);
}
}
```

MaterialAppウィジェットのdarkThemeパラメータにダークモード用のThemeDataクラスを渡します(①)。ThemeDataクラスはbrightnessにBrightness.darkを指定することで、ダークモード用のテーマを自動計算してくれます(②)。MaterialAppウィジェットがシステムのダークモード設定を監視しているので、スマートフォンがダークモードに切り替わるとアプリの外観もダークモードに変化します。

それでは実際にアプリを実行し、ダークモードを切り替えてみましょう。 iOS Simulator の場合は、設定アプリから「Developer」→「Dark Appearance」の 順に選択し、スイッチでモードを切り替えます(図5.3)。



図5.3 モード切り替えでアプリの外観が変化する様子

## アプリ独自のテーマ管理

マテリアルデザインにのっとったテーマについては、MaterialAppウィジェットやThemeDataクラスを用いることで実現できることがわかりました。一方で、アプリ独自のテーマを管理する方法としてTheme Extensionがあります。

```
class MyTheme extends ThemeExtension<MyTheme> {
  const MyTheme({
```

```
required this.themeColor,
  });
  final Color? themeColor; — ①
  @override
  MyTheme copyWith({Color? themeColor}) {
    return MyTheme(
      themeColor: themeColor ?? this.themeColor,
   );
  }
  @override
 MyTheme lerp(MyTheme? other, double t) {
    if (other is! MyTheme) {
     return this;
                                                                 -63
    return MyTheme(
      themeColor: Color.lerp(themeColor, other.themeColor, t),
    );
  }
}
```

ThemeExtension クラスを継承した MyTheme クラスを実装しました。 MyTheme クラス で は themeColor と い う カ ラ ー を 扱 う こ と に し ま す ( $oldsymbol{1}$ )。 ThemeExtension は抽象クラスで、サブクラスでは2つのメソッドを実装しな ければなりません。

**②**の copyWithメソッドは任意のフィールドを変更したコピーをインスタン ス化するメソッドです。

❸の lerpメソッドはテーマの変化を線形補間するメソッドです。このメソッドを実装しておくことで、テーマ変更時にアニメーション処理されるようになります。たとえば、ダークモードへの切り替えタイミングが該当します。こうして実装した MyTheme クラスは ThemeData クラスのパラメータに渡します。

```
class MyApp extends StatelessWidget {
  const MyApp({super.key});

// This widget is the root of your application.
@override
Widget build(BuildContext context) {
  return MaterialApp(
    title: 'Flutter Demo',
    theme: ThemeData(
```

```
colorSchemeSeed: Colors.deepPurple,
  extensions: const [MyTheme(themeColor: Color(0xFF0000FF))],  
),
darkTheme: ThemeData(
  colorSchemeSeed: Colors.deepPurple,
  brightness: Brightness.dark,
  extensions: const [MyTheme(themeColor: Color(0xFFFF0000))],  
),
```

ThemeData クラスの extensions パラメータに ThemeExtension クラスを継承した MyTheme クラスのインスタンスを渡します (①)。 extensions パラメータは List 型なので、複数の Theme Extension を設定することも可能です。 ThemeData クラスのパラメータなので、ダークモード用に別の MyTheme クラスを指定することも容易です (②)。

続いて、MyTheme クラスのテーマを適用したウィジェットを実装します。 ThemedWidget という正方形を描画するウィジェットです。

Theme ウィジェットの of メソッドを使い、ThemeData クラスのインスタンスを取得します ( $\P$ )。 さらに、ThemeData クラスの extension メソッドを使い、MyTheme クラスのインスタンスを取得します( $\P$ )。

Theme というウィジェットがここで初めて登場しましたが、MaterialAppウィジェットが内部で生成しているウィジェットで、ThemeData クラスのインスタンスを持っています。Theme ウィジェットの子孫であれば、どのウィジェットも of メソッドを使って ThemeData クラスのインスタンスを取得することができるのです。 さらにこの ThemedWidget のように、build メソッドの中で Theme ウィジェットの of メソッドを呼び出すと、テーマが変更されたときに再描画されるしくみも備わっています (詳しくは第9章で解説します)。このしくみのおかげで、ダークモードへの切り替え時に色がアニメーションする様子を確認できます。



### Theme Extensionを利用したアプリのサンプル

最後に、Theme Extensionを利用したサンプルの全体を掲載します。このサンプルではシステムのダークテーマ設定を利用せず、アプリ独自にダークテーマ設定を持つようにしました。Theme Extensionを継承したクラスでlerpメソッドを実装したことにより、テーマ変更時に色がアニメーションする様子が確認できます。

# ./lib/main.dart import 'package:flutter/material.dart'; class MyTheme extends ThemeExtension<MyTheme> { const MyTheme({ required this.themeColor, }); final Color? themeColor; @override MyTheme copyWith({Color? themeColor}) { return MyTheme( themeColor: themeColor ?? this.themeColor, ); } @override MyTheme lerp(MyTheme? other, double t) { if (other is! MyTheme) { return this; return MyTheme( themeColor: Color.lerp(themeColor, other.themeColor, t), ); } void main() { runApp(const MyApp()); } class MyApp extends StatefulWidget { const MyApp({super.key}); @override State<StatefulWidget> createState() => \_MyAppState(); }